

令和4年度 第2回住吉区総合教育会議 事前送付資料に関するご質問・ご意見

質問・意見	
西野委員	<p>(3)住吉区における主な教育・子育て関連事業について •スクールソーシャルワーカーの配置 ⇒効果のあった好事例を教えてください。</p> <p>•「重大な虐待ゼロ」に向けた地域・医療連携ネットワーク事業 ⇒前回の会議以降の連携の進捗状況を知りたいです。</p> <p>•こどもサポートネット事業 ⇒行政と学校がこのシステムを活用してどのように課題の解決を図ろうとされているのか知りたいです。(オブザーバーの校長先生方からの発信もお願いします。)</p>
回答	
	<p>●スクールソーシャルワーカー (SSW) の好事例について 当区SSWは、こどもサポートネット事業に2名、教育文化課に1名が配置されています。 学校で行われるスクリーニング会議Ⅱにおいて学校から連絡票を受け、支援の検討を行うほか、学校に拠点をおいているSSWが校内ケース会議・学年会議などへ出席し、教員やスクールカウンセラーと連携を図りながら、その対応にあたるなどしています。今回はその中の好事例を報告します。</p> <p>【小5 女児Aに関する事例】 不登校傾向あり、一学期は週に2回程度の登校（遅刻多い） シングルマザーの母（ネグレクト傾向）との二人暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> •学校からAに関しての相談を受ける。 •Aに対し「なぜ、学校に行きにくいのか？」を確認したところ、「朝、お母さんが起こしてくれない。一人で用意して行くのはしんどい。」とのこと。 •担任とSSWとが連携をとり、朝のモーニングコール、登校していないときは、共に家庭訪問等を粘り強く行い、本児に関わり続けた。 •長期休み後に、毎年リズムが崩れるとの事だったので、夏休みも何度か連絡し、様子観察を行い、二学期につないだ。 •二学期のスタートはスムーズにきることが出来て、運動会・音楽発表会・自然体験学習（一泊二日）に全て参加。 •SSWは、定期的にAへのエンパワメントを行った。 •結果、週に5日登校できる週もできるなど、一学期より登校状態が良くなった。 <p style="text-align: center;">(裏面へ)</p>

回答

- ・「重大な虐待ゼロ」に向けた地域・医療連携ネットワーク事業における、前回の会議以降の連携の進捗状況

本年7月から9月の間、地域担当保健師が区内24か所の小児科医療機関を訪問し、「住吉区版子ども虐待予防早期発見初期対応の視点」を配布・活用を依頼しました。

その際、区内小児科医師と区保健福祉センターとの交流会並びに児童虐待通告に係る研修を開催するに当たって、アンケートにて希望を聴取しました。医療機関の反応は概ね好意的で、ほとんどの機関から定期的に交流の機会を持ちたいとのお話をいただきました。

また、交流会・研修会の開催日程についても医療機関にアンケートで希望を聴取し、令和5年2月2日に開催予定しています。

研修内容についても希望を踏まえ、医療機関が区保健福祉センターに児童虐待通告や要対協ケースに関する情報提供を行うにあたって個人情報の取扱いを含めた留意点をテーマに、児童虐待防止協会から弁護士を講師に派遣依頼しています。

なお、こうした取り組みの結果、小児科医療機関と保健師や子育て相談室の間で、よりスムーズな連携を行うことができるようになっています。

- ・こどもサポートネット事業を活用した課題解決プロセスについて

こどもサポートネット事業のポイントの一つは、学校における「気づき」を「見える化」し、区役所等の支援に繋げるというものです。

具体的な流れは次の通りとなります。

- ① 学校はスクリーニングシートを活用し、すべての子どもの生活状況等を把握
- ② スクリーニング会議Ⅰ（教職員会議）を開催し、内容を共有、課題を抱える子どもを発見、スクリーニング会議Ⅱにあげるケースの選定をする。
- ③ 学校・区役所（SSW・推進員）でスクリーニング会議Ⅱを開催し、支援方法を検討する。学校からは連絡票を提出する。
- ④ スクリーニング会議Ⅱにも参加するSSWがケースのアセスメントを行い、推進員がアウトリート等を行い、保健福祉分野の支援につなぐ。